番号	項目	内容	対応
1	報告事項 (2) アンケート調査、ヒアリング調査、他大学事例調査の報告(速報)について	今回は速報値ということですが、これをまとめていただくときに、仁戸名の状況をよく分かっているのは、リハビリテーション学科であって、幕張にいる学生たちは2キャンパス体制について満足しているかどうかは、仁戸名のことがわからない状況で答えているので、キャンパス体制については、在校生も卒業生もリハビリテーション学科の学生たちが非常に不満を感じていて、キャンパス統合を望んでいると、明らかな結果が出ているので、そのことを結果に反映させていただきたいと思いました。	いただいたご意見を踏まえ、アンケートの回答結果をクロス集計し、リハビリテーション学科含めた各学科の学生の回答を報告書に反映いたします。
2	報告事項 (2) アンケート調査、ヒアリング調査、他大学事例調査の報告(速報)について	在校生調査において、大学院への進学希望がありますが、これはできれば学年別に見ていただきたいと思います。大学に入って1年目、2年目ではまだ大学院への進学希望を理解、意識することが難しいと思いますので、学年別で見ていただきたいと思いました。	いただいたご意見を踏まえ、アンケートの回答結果をクロス集計し、在学生アンケートの学年毎の大学院への進学希望について報告書に反映いたします。
3	協議事項 (1) 学部・学科の構成や教育内容について	学部生の定員のところで、例えば次の資料の理学療法学科専攻のところで、リハビリテーション学科の定員は25名のままでいいと思いますが、民間も定員割れし始めているし民間がこれだけあるから県立はこの人数でいい、という書きぶりに見えてしまいます。それよりも、将来的に千葉県を背負っていくリーダーを作るには少数精鋭で、学部生の人たちの中で大学院に行ってもらってリーダーを作る、だから25名でいい、という表現のほうが良いと思います。	いただいたご意見を踏まえ、表現を修正します。
4	協議事項 (1) 学部・学科の構成や教育内容について	定員を増やしてもその学生の歩留まりがどうかというのは大事な話になると思います。	卒業生の県内定着は重要であると考えており、ご意見を踏まえ、報告書を取りまとめていきます。

番号	項目	内容	対応
5	協議事項 (1) 学部・学科の構成や教育内容について	本当にその地域に残る人たちというのは、地元の人たちです。その見極めをどうするかがとても重要なことだと感じています。いかに残していくかが非常に重要なことだと思います。	卒業生の県内定着は重要であると考えており、ご意見を踏まえ、報告書を取りまとめます。
6	協議事項 (1) 学部・学科の構成や教育内容について	現場では言語聴覚士（ST）不足が顕著になってきています。STの代わりに作業療法士が嚥下を見たり、高次脳機能障害を見たりしなければならず、もともと人数が少ない中でさらにST業務も入ってくる、というのが現場の実情になっています。今後、千葉県の医療を支える中で、高齢化で誤嚥性肺炎等患者が増えニーズが上がってくると思うので、ST学科の設置を検討してもいいのではないかと思います。	いただいたご意見を踏まえ、リハビリテーション学科内に言語聴覚学専攻を設置する案を検討していきます。
7	協議事項 (1) 学部・学科の構成や教育内容について	看護学科の定員を、例えば100名にした時に、保健師をどうするつもりでしょうか。地域包括支援センター業務は看護師でも保健師でも両方できますが、やはり保健師を持っている方は、地域を見る目が非常に優れています。看護師の方は最初、どうしても個人を見てしまって、なかなか地域に目が届かない部分があります。一方で、実習地の確保はどここの大学も大変だと伺っていますので、これからの少子化の中で、目指すべきところを、学生をどういう方にしたいのか、看護師だけで活躍する方でいいのかどうかということ、もう少し考える必要があるかと思います。	看護学科の収容定員増後の保健師養成については重要な検討課題であると考えており、実習先の確保や健師養成の必要性等の観点から、しっかりと検討していきます。
8	協議事項 (1) 学部・学科の構成や教育内容について	ぜひSTの養成課程を作っていただきたいという切な希望があります。定員や教員、実習地の確保が難しいから新設は難しい、ということではなく、どの程度STがいなくて困っているのか、どれだけ必要なのか、ということのリサーチしていただき、ぜひ前向きに検討していただきたいと思います。	いただいたご意見を踏まえ、リハビリテーション学科内に言語聴覚学専攻を設置する案を検討していきます。

番号	項目	内容	対応
9	協議事項 (1) 学部・学科の構成や教育内容について	<p>現在、県内に歯科技工士の養成校はない、ということです。歯科技工士に関しては高齢化が進んでいます。また今、デジタル化が進んでいて、技工所で新しい機材を入れる費用が非常に大変だったり、入れ歯の発注が海外に行ってしまうと国内の技工所の運営が難しい、というような話があります。</p> <p>ただ、8020を達成した人が増えるとはいえ、これから高齢化が進み、技工物の需要はまだまだ高まっていく中で、既存の歯科衛生学科の中に、歯科技工士の国家資格を取得できるコースを設置するという事は、実際問題難しいという現状があります。併設というよりは、生涯にわたって食べていくために、歯科技工士の技術が非常に必要だと思っておりますので、もう少し検討していただきたいと感じています。</p>	<p>歯科技工士について、都道府県別人口10万対の就業歯科技工士数は千葉県は、18.8人と全国平均の27.3人と比較し少ない状況であり、（第三次千葉県歯・口腔保健計画より）養成の必要性は確認できます。</p> <p>一方で、保医大で養成する必要性については慎重な検討が必要と考えます。</p>
10	協議事項 (1) 学部・学科の構成や教育内容について	<p>この学部と大学院を、どういったビジョンを持って作るのかが、一番大事じゃないかと思えます。全国に先駆けて、データを活用した公衆衛生やメタボの話など、いろんな分野があります。最高級のシンクタンクになるんだと。</p> <p>そうすると大事なことはネットワーク作りです。マネジメント力です。どういう幹部を持ってくるか。専門性がある人、またネットワークづくりの上手な人。例えば、製薬会社出身の方や情報系の方など。役員の構成、私はハードウェアよりもソフトウェアで勝負するものを作ればよいと思えます。</p> <p>また、他大学との提携など、ソフトの最高級の機能を具備したものを、ビジョンとして掲げたらよいと思えます。</p>	<p>大学のビジョンやネットワークづくり、ソフト・ハード両面における機能強化については大変重要な検討課題であると考えており、ご意見を踏まえ、報告書を取りまとめしていきます。</p>
11	協議事項 (2) 大学院の設置可能性について	<p>いわゆる研究ができる実践家、そして実践が分かる研究者、この実践の輪と教育の輪がブリッジをかけていくという仕組みを作っていないと大学院、大学そのものが生き残れないのではないかと考えています。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえ、教育研究において産業界と連携した取組および人材を検討してまいります。</p>
12	協議事項 (2) 大学院の設置可能性について	<p>必要なのは、現場とアカデミアとの交流であり、さらに最先端のものを常に求める必要があります。超一流のものに対する憧憧のようなものがマストです。国際性も大事です。</p> <p>大学院教育をやる場合でも、できるだけ閉鎖社会にならないように、民間医療機器メーカーや海外メーカーとの交流、他大学との交流、そういった仕組みを作ることが大切です。</p> <p>千葉県として最高級のものを作って日本をリードするというような意志がないと、この仕事をやっても面白くないと思えます。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえ、学部および大学院の医療機関等の連携・交流および国際性、他大学等の交流の観点から学部学科の教育内容に関する調査検討、および大学院に必要な課程や機能等の検討に反映いたします。</p>

番号	項目	内容	対応
13	協議事項 (2) 大学院 の設置可能性 について	千葉県内の4年制の看護大学もだいぶ増えましたが、大学院が少ない。そのため、千葉県で大学院に行きたい看護師は都内に出てしまう、あるいは神奈川県に行ってしまう。そのため、ここは早く、千葉県民のナショナリズムとしては、なるべく早く大学院を作っていただきたい。今、大学院ができる可能性があるのはこの大学しか多分ないと思います。ぜひとも前向きに考えていただきたい。	いただいたご意見を踏まえ、新たに大学院を設置する案を検討していきます。
14	協議事項 (2) 大学院 の設置可能性 について	大学院はぜひ作っていただきたいと思います。特に看護の場合、大学院で教育して実践家を作るということが、色々な領域で行われてきています。先生方のヒアリングで1研究科1専攻という話になっていますが、できれば神奈川県立保健福祉大学のよう、実践の専門家を作るような仕組みづくりをぜひお願いしたいと思います。その人たちが臨床の中で医師やコメディカルの方たちと議論をしながら進めていくことによって質の確保ができるということは、色々なところで言われています。ぜひお願いしたいと思います。	いただいたご意見を踏まえ、新たに大学院を設置する案を検討していきます。
15	協議事項 (2) 大学院 の設置可能性 について	リーダーを作るところが私は本当に重要かと思います。例えば、理学療法士の世界でも、管理職で博士を持っている人を置いている病院と、そうじゃない病院がありますが、管理職で博士を持っている病院の方が質は高く、臨床研究も確実にやっていると多いです。質が高いと病院としても潤う。人件費の問題が出てくるとまた難しいのかもしれないのですが、そういうデータも出していただけるといいと思います。いいリーダーを作るために、学部生をリーダーとしていく大学院をぜひ作っていただけたらと思っています。	いただいたご意見を踏まえ、新たに大学院を設置する案を検討していきます。
16	協議事項 (2) 大学院 の設置可能性 について	歯科衛生士の大学院の進学率はどんどん上がっている状況です。特に千葉県は歯科衛生士が行政にいて、他の職種と連携をしながら仕事をしています。行政は色々なデータを持っていますので、そういったものをしっかりと活用する。研究ベースでみんなで検討して評価をしていくという、臨床とはまた違う能力が必要とされています。大学院でそういった能力をしっかりと身につけ、行政でも政策で予算を取るような立案ができるような歯科衛生士を養成をしていただきたいと思います。行政を引っ張っていくリーダーとなるような人材がどんどん増えるといいと思っています。	いただいたご意見を踏まえ、新たに大学院を設置する案を検討していきます。
17	協議事項 (3) その他 必要な機能強化 について	千葉県立保健医療大学では高度専門職育成に加え、シンクタンク機能ということも期待されておりますので、医療政策の研究と人材育成も担う大学院の設置の可能性について御検討いただければと思います。	いただいたご意見を踏まえ、新たに大学院を設置する案を検討していきます。

番号	項目	内容	対応
18	協議事項 (3) その他 必要な機能強化について	保医大は歯科診療所を持っていますが、学生教育に必須な状況となっています。当然、診療所を設置するためには、通ってくれる患者が必要です。本学の前身の短期大学が1981年に開設して以来、診療所に通ってくれる患者がいます。場所を他に移したときに、果たして患者さんたちがついてきてくれるか、また実習のための新たな患者の確保という、非常に難しい問題があると思います。診療所をどこにどういう形で設置するかについては、深い配慮が必要ではないかと思います。	歯科診療室の取扱いについては重要な課題であると認識しており、キャンパス立地等の検討にあたりしっかりと検討していきます。
19	協議事項 (3) その他 必要な機能強化について	臨床系教員が臨床現場に出て研修を受けることはこれから必須だと思います。しかし、残念ながら保医大の教員は臨床現場に入って、実際の臨床をすることができない身分になっています。ただ、いわゆる教育系のガイドラインでは、臨床教員は現場で週1回教育を受けるべきだといったことが書かれてきていると思います。少なくとも、連携する県立の医療機関がありますので、そこの間で兼職とか兼任ができるような形で、教員の臨床実習能力が上げれば良いということは常々希望していることです。そうしないと、教えている先生が実際の臨床現場をわかってない、という非常に困ったことが起こってくるのが危惧されます。	教員の臨床実践については重要な課題であると認識しており、公立大学法人化も見据え、検討していきます。
20	協議事項 (3) その他 必要な機能強化について	これからのポイントは国際化対応ということで、資料には、海外の連携と交換留学などが書かれていますが、大学院や看護学科などで、留学生を積極的に受入れることができるのかどうか、その辺りも検討課題になるのではないかと考えています。	保健医療分野は国家試験受験資格に関連する学部では留学生の受け入れが難しい状況にありますが、短期交流等の実現可能な施策を検討してまいります。また、大学院では留学生の受け入れは教育研究の国際化にも寄与すると考えられることから、いただいたご意見を踏まえ、報告書に反映いたします。
21	協議事項 (3) その他 必要な機能強化について	今後、日本においても国際化が必要な時代になります。何らかの仕組みは必要で、そういう点では、保医大のような単科大学では、全ての面倒を見ることは難しいと思いますが、他大学と連携教育の機会を増やすとか、教員についても、留学生についても今後の課題であると思います。保医大の使命は、一義的には県内の医療職を増やすことですが、それに付随する、教養を深めるための国際化が必要となってくると思います。優先課題の順を間違えないようにしながら、検討を深めていければと思います。	いただいたご意見を踏まえ、大学教育の国際化等を検討していきます。

番号	項目	内容	対応
22	協議事項 (3) その他 必要な機能強化について	日本の行政機関というのは、せっかく大きなデータを持ちながら、それを活用されていないところがあります。その辺りは、大学院の中でそういう部門を作られたらいいんじゃないかと思います。新しく作ることが理想的ですが、まずは大学の中にそういう研究者を1人でも入れたら動き始めると思います。	いただいたご意見を踏まえ、大学院の設置や、保健医療データ等を取り扱うシンクタンク機能等を強化する案を検討していきます。
23	協議事項 (3) その他 必要な機能強化について	資料に記載されている学内のリハビリテーション診療所はいいと思います。立地にもよりますが、どこにこの大学を作るかにもよりますが、特に千葉市内であれば、医療過疎な部分はないのでキャンパスの中に医療機関を作る必要はないと思います。歯科診療所は貢献しているようですので、あってもいいと思います。	いただいたご意見を踏まえ、リハビリテーション診療所は計画から削除いたします。なお、歯科診療所は学生の実践教育等に必要のため、継続して設置する案で検討いたします。
24	協議事項 (3) その他 必要な機能強化について	カフェを作ろうとかパンを作ろうという考え方については、どこに作るかが問題だと思います。山の中でなければ、こういうものはいいかもしれません。	食堂や飲食施設は、現在保医大内になく教職員学生からの要望が強いこと、栄養学科の実践先の一つとして活用可能であること等から、案として提示いたしました。いただいたご意見も踏まえ丁寧に検討してまいります。
25	協議事項 (3) その他 必要な機能強化について	学生には寄宿舎や学生寮というのは非常に不評です。今の若い学生は、集団生活に馴染まないようです。自分でアパートとかマンションを借りて住んでいる方が非常に多いです。寮は大体どこもガラガラようです。これはよく考えたほうがいいかもしれません。県営住宅を学生に貸すのはなかなか現実的には難しいかと思います。不便なところにありますし、周りの環境もよくないかもしれません。難しい気がします。	神奈川県立保健福祉大学の調査時に、学生と地域との交流、連携に関する実践的な取組の好事例であったため提示いたしましたが、いただいたご意見を踏まえ丁寧に検討してまいります。
26	メール	育成する人材像について、県内リーダーの育成を掲げることに賛成するとともに、是非、常日頃から学部教育の中で、県内リーダーになることを伝えてほしいと思います。このことにより、卒業後、都内など県外に就職した場合であっても、研鑽を積み、ゆくゆくはリーダーとして、千葉県に戻ってくることもあるのではないかと思います。	いただいたご意見を踏まえ、大学の養成する人材や大学および学部学科の目的への反映を検討いたします。
27	メール	大学院の設置について、社会人を主な対象として、リスキリングが社会全般で求められている以上、「保健医療学研究科保健医療学専攻（修士課程）」の設置を検討いただきたいと考えています。	いただいたご意見を踏まえ、新たに大学院を設置する案を検討していきます。
28	メール	新学科の創設について、千葉県は農業産出額全国第4位であり、食と栄養の関連を研究する「食品栄養科学」の新設は、県の施策にもつながるものと考えます。介護や保育の分野では（管理）栄養士の果たす役割が益々高まっています。	食品栄養科学専攻の設置については、保医大で養成する必要性は慎重な検討が必要と考えます。

番号	項目	内容	対応
29	メール	<p>デジタルヘルス分野について、厚生労働省主導で、介護分野では「科学的介護推進体制加算」(LIFE加算)、医療分野でも医療DX推進体制整備加算などで現場でのデジタル化を推進しており、特に介護分野では、収集する国側ではどのように分析・フィードバックするか、提出する側の事業者側では、どのようにフィードバックされた情報を現場で活用していくかなど、アウトカム評価が重要となってきました。デジタル・AIを活用して、人材不足を克服するための業務のDX化を推し進めるかが今後のカギであり、そのための基礎知識、思考方法を大学に身に着けることが変化の激しい社会を生き抜くうえで重要と考えます。</p> <p>大手介護事業者のSompoケアなど先駆的に取り組んでいる企業出身者などの実践的な講義などを一部組み入れるなど、卒業後につながるカリキュラムを組めるか、必要な教員を確保できるかが課題と思われまます。</p>	<p>大学教育・研究等におけるデジタル分野の重要性は大きいものと認識しており、いただいたご意見を踏まえ、具体的な機能強化の方向性を検討していきます。</p>
30	メール	<p>キャンパス統合について、キャンパス間の移動が授業スケジュールやサークル活動に影響を及ぼしていること、リハビリテーション学科の学生の幕張へ統合すべきというアンケート結果は圧倒的多数であり、多職種連携の流れや今後の少子化を踏まえた学生募集を考えると統合を図ることが大学の生き残りをかけて大切なことと考えます。</p>	<p>いただいたご意見も踏まえ、キャンパスの統合を含め、立地案を複数検討していきます。</p>
31	メール	<p>施設の老朽化問題について、建替が第一ですが、既存施設の長寿命化工事(小中学校の校舎など公共施設で行われている)も組み合わせ、現実的な対応を図ることも検討が必要と考えます。</p>	<p>いただいたご意見も踏まえ、ハード整備の方向性を検討していきます。</p>